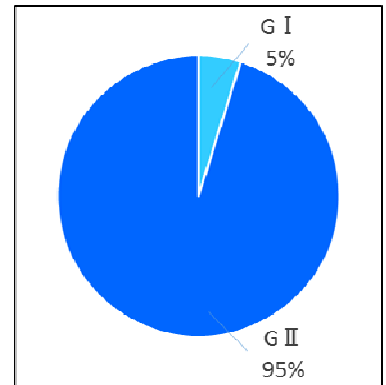


センターだより

今シーズンのノロウイルス検出状況について

昨年 2014 年に、新規の遺伝子をもつノロウイルス GⅡ.17 が発見され、今シーズンは GⅡ.17 が 2006 年や 2012 年を上回る大きな流行を起こすのではないかと懸念されています。そのため、本県でこれまでに検出されたノロウイルスが、どのような型種なのかについて解析を進めてきましたので報告します。

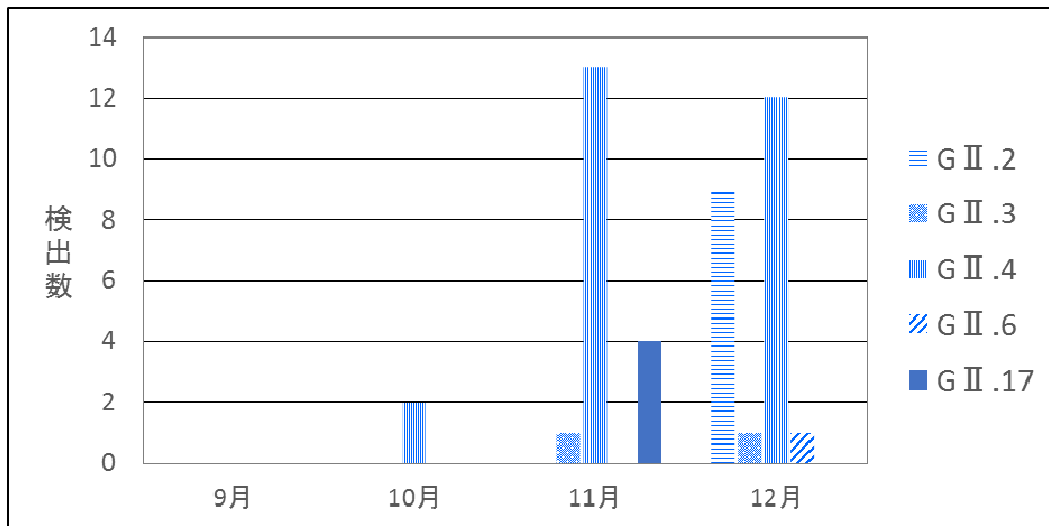


<検出状況と結果>

2015 年 9 月から 12 月までに感染症発生動向調査でノロウイルスを検出したもののうち、95%がノロウイルス GⅡでした。(右図)

GⅡは、更に詳しく RNA 依存性 RNA ポリメラーゼ領域の遺伝子解析を行い、これまでに結果が判明しているものは以下のようになりました。

*集団発生、散発事例いずれも 1 とカウント



GⅡ.17 は、11 月に散発事例で 0 歳児(郡山保健所管内)、2 歳児(奈良市保健所管内)、7 歳児(中和保健所管内)、8 歳児(中和保健所管内)から 4 例検出しています。この 4 例はいずれも川崎市で発見された GⅡ.17 変異株と類似のものです。

今シーズンもこれまで主流となってきた GⅡ.4 の検出数が最多です。現在のところ、心配されていたほどの GⅡ.17 による流行は起こっていませんが、今後の動向にも注意していく必要があります。

興味ある報告として、GⅡ.17 は十分なウイルス量があっても迅速キットへの感受性が低い傾向があるとされています。現在は、反応性を改良したキットも販売されていますが、本県の GⅡ.17 を検出した 4 例のうち 2 例は迅速キットでノロウイルス陰性とされたものであったため迅速結果の判定には注意が必要です。